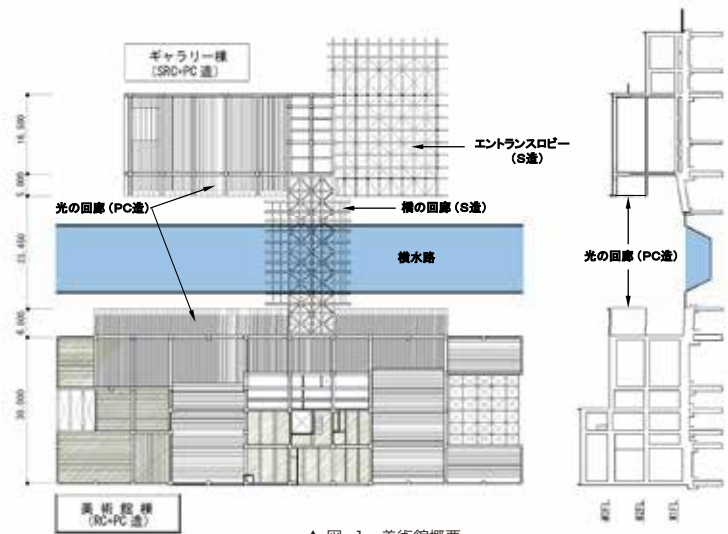




# 長崎県美術館

— 光の回廊 リブ付きPC床版 —

**美術館概要**  
 長崎県美術館は、敷地中央に出島横水路が横断し、水際で美術鑑賞を楽しめる世界にも例のない美術館です。「長崎水辺の森公園」の一角にある自然と調和した美術館で、世界的建築家・隈研吾氏によるデザインです。運河を中心として、ガラスのエントランスロビー、運河を渡る橋の回廊、光の回廊、風の回廊といった開放空間ならびにデザインの要素としての石のルーバーなど、建築デザインと構造計画、建築材料と構造部材の



と構造計画、建築材料と構造部材の融合を実現した建物です。本美術館の大きな特徴は、運河を挟み西側の「ギャラリー棟」と東側の「美術館棟」の二つの棟によって構成されていることです。「ギャラリー棟」はエントランスロビーや県民ギャラリー、ホールやアトリエなど一般の方々が気軽に利用できる機能で構成されています。一方、「美術館棟」は、事務室や研究室、収蔵庫や作品搬出入口並びに企画展示室や常設展示室など美術館としてオーソドックスな機能が集約されています(図-1)。「長崎水辺の森公園」に隣接する本美術館は、公園の一部の機能も果たしています。ギャラリー棟の一部には盛り土を施して植栽し、屋上も芝などで緑化して公園との連続性も図られています。また、彫刻など設置する屋上庭園には美術館の中からも外からも自

■ 建築概要

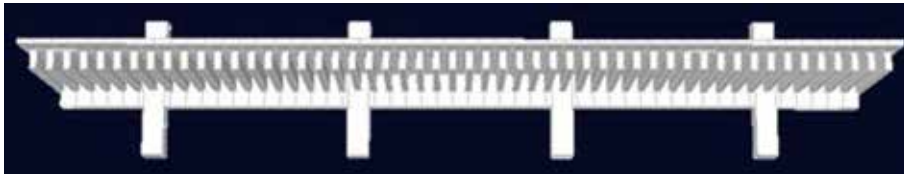
建築名称	長崎県美術館
建築地	長崎県長崎市出島町2-1 (長崎水辺の森公園)
建築主	長崎県
設計	(株)日本設計(設計協力:隈研吾)
施工	大成建設・梅村組・松島建設JV
PC製造施工	(株)建研
工期	平成15年4月~平成17年2月
PC使用箇所	ギャラリー棟・美術館棟天井



▲写真-2 県民ギャラリー



▲写真-1 光の回廊・風の回廊



◀図-2 光の回廊・PC床版構造フレームパース

「光の回廊」を含むPC構造

由にアクセス可能となっています。収蔵品の特色は長崎ゆかりの美術とスペイン美術で、ピカソやダリなどを収蔵するスペイン美術のコレクションは「須磨コレクション」と呼ばれる個人コレクションを母体とし、アジアでも有数の規模を誇ります。

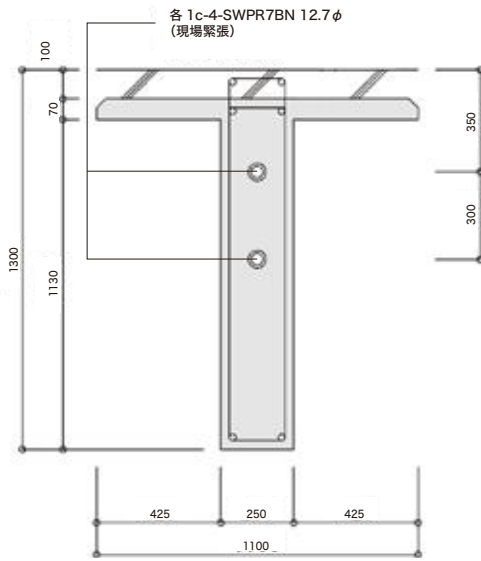
ギャラリー棟および美術館棟の天井は、おもにT型形状のプレキャストプレストレストコンクリート(PC)床版で構成され、光の回廊を含め、そのリブ形状が特徴です(図1-2)。この天井面のプレキャスト化は、美術品に悪影響を与えるアルカリ成分の早期放出にも寄与しています。

光の回廊の跳ね出し寸法は、PC構造とすることで、ギャラリー棟で5m、美術館棟で6mを実現しています(写真1-1)。県民ギャラリーの天井は、天吊り式展示パネルのレールをPCリブに組み込んだ天井デザインとなつています(写真1-2)。

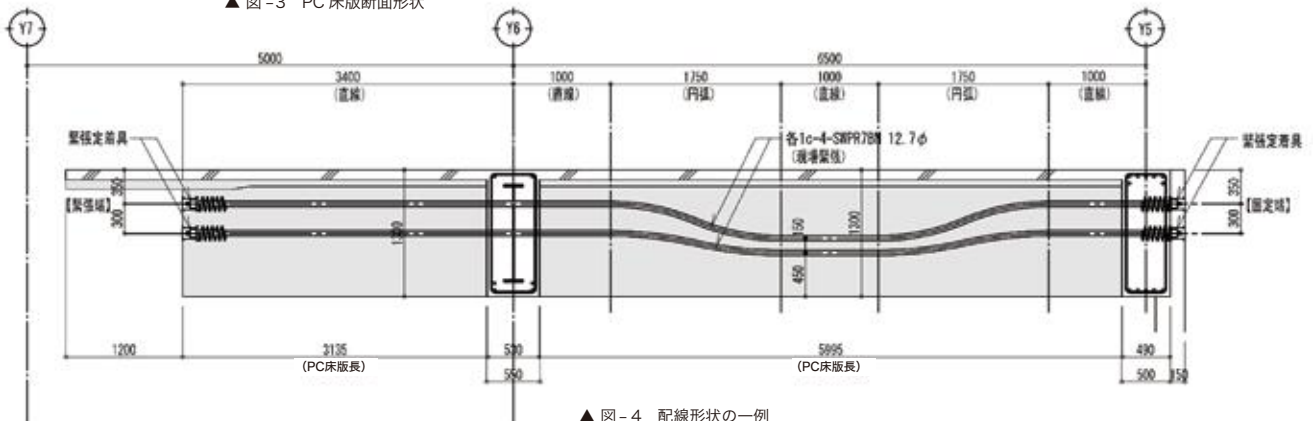
PC床版について

PC床版は、現場打ちコンクリートと一体化する合成床版で、リブ幅250mmで現場打ちコンクリート部を含めた部材せいは900(1300mm)です(図1-3)。

ハーフプレキャスト部を現場へ搬入し、支保工上に架設した後に現場打ちの梁とともに現場打ちコンクリート部を施工し、所定のコンクリート強度が発現後にプレストレスによる圧着接合を行う構造としました。配線形状の一例は図1-4に示す通りです。この圧着接合を行う構造としたことで、光の回廊における跳ね出し部が実現できました。(妹尾 正和)



▲図-3 PC床版断面形状



▲図-4 配線形状の一例